一般質問

Q 生活保護行政と就労支援は表裏一体で

A 生活保護・就学支援・給付制度の適正な運営をする

会派に属さない議員　**川原清 議員**

【問】全国の生活保護世帯は25年12月現在、159万余世帯、受給者数では215万人余となっています。そこで質問します。

①本市の生活保護受給者数の実態を伺います。

②生活保護行政は最後の「駆け込み寺」でなければなりませんが、改善点について伺います。

③不正受給者への対応について伺います。

④生活保護行政で、受給希望者を窓口段階で追い返すと言うことが、ある自治体でおこりました。本市ではそのような事をしないと約束をしてほしい。

【答】①本市の実態は25年12月現在で、279世帯で、385人です。

②国としても、失業即生活保護とならない様、再就職に結びつけられるような給付制度があります。

③不正受給者対策は定期的に家庭訪問などをしながら指導・助言をいたします。

④一時「水際作戦」として報道された時期がありましたが、本市は国や県の指導に基づいて対応します。

Q 消防団員の年額報酬と出勤手当の増額は

A 近隣市町村の動向を確認し検討

会派に属さない議員　**相原孝彦 議員**

【問】昨年の臨時国会で消防団支援法」が成立し退職報奨金の増額が明記されました。

今後、消防団員の年額報酬、出動手当の増額も考えるべきでは。

【答】本法律で、団員の処遇改善のため、国及び地方公共団体は必要な措置を講ずることが義務付けられました。

現在示されている案は、26年4月1日以降に退職した団員に適用され、支給額は、一律5万円引き上げられます。

年額報酬、出動手当は消防組織法により各市町村の条例で定めています。

本市は県内の平均額を超えていますが、近隣市町村の動向を確認し検討します。

【問】生活保護、児童扶養手当の不正受給者への対応策は。

【答】生活保護開始時点での充分な説明やケースワーカーによる受給世帯への家庭訪問時の収入確認や生活実態の把握等により、不正受給の防止に努めています。

児童扶養手当の受給者には、民生委員の聴き取りや当事者からの聴き取り、現地調査等を行っています。

未然防止のため、認定請求時や毎年の現況届の際に児童扶養手当制度の内容や資格喪失事由等の説明を行っています。

今年もやります！議会報告会

議会の活動などを市民の皆さんに報告する『議会報告会』を、ことしも開催します。

報告会では、議会からの報告のほか、皆さんからご意見をいただき、今後の議会活動に反映してまいります。

5月から7月にかけて、市内の各地域にお邪魔させていただく予定です。どなたでも参加できますので、ぜひお気軽にご来場ください。

Q 介護保険の見直しでサービスはどうなる

A 持続性につながる予防事業を推進する

日本共産党　**桜井博義 議員**

27年度から介護保険の第6期が始まり、これに呼応してサービスの大幅な見直しが明らかになりました。

【問】軽度の要支援の方は介護給付から除外され市町村の事業に移ることになります。

要支援の認定者は何人見込んでいるか。市の対応はどうか。

【答】要支援の認定者は371人となり、予測を大きく上回っています。市としても介護保険の影響は大きく、どのような内容かを注視しています。

【問】特別養護老人ホームの入居要件を要介護3以上にするとし、介護度が低い方の家族の負担が増大することになります。市はどう対応するのか。

【答】改正は重度の待機者の解消を図る意図がありますが、特別な事情も考慮されることから実態に合わせた運用を図ります。

【問】介護保険制度は老後の人権と尊厳を保障して家族の負担を軽くするための制度です。

したがって国、市としても人的、財政的にも責任を果たす必要がありますが、市長の考えは。

【答】制度、財政処置は全国市長会で要望し、持続性につながる予防事業を推進します。

Q ふるさと納税をPRし特産品を提供する考えは

A 納税者との関係を大切にPRし特産品の提供は考えていません

新志会　**山谷仁 議員**

【問】全国的に活用され、金額が伸びている「ふるさと納税」を積極的にPRし、併せて滝沢市の特産品を提供するとともにブランド化を図るべきと考えるが。

【答】滝沢市においても昨年度を超えるふるさと納税額を頂いており、現時点での納税額は28件114万3千円となっております。

納税者の使途希望1位は「岩手山、鞍掛山、春子谷地等の優れた自然環境の保全」となっています。

継続的な納税者もおり、関係を大切にPRします。特産品の提供については考えていません。

【問】25年2月に出された滝沢村中期財政計画は複合交流施設、滝沢中央小学校、スマートインターチェンジ等の事業を抱えて、今後の財政運営は。

【答】総合計画の見直しでは交流拠点複合施設整備に約41億円、滝沢中央小学校約33億円、スマートインターチェンジに約5億4千万円の事業費を見込んでいます。

特にも施設等の維持・補修費の投資などにより、今後は厳しい財政運営となります。

Q 新設小学校計画の進み具合は

A 29年度4月開校予定建設の計画は順調

一新会　**工藤勝則 議員**

【問】新設、滝沢中央小学校の建設計画の進み具合は。

【答】25年12月までに用地買収完了。26年度は、用地の造成と校舎等の設計、27、28年度は校舎や体育館、プール等、建設の予定です。

通学路は、歩道と車道の分離を前提として計画し、安全確保に務めます。

【問】鵜飼小学校区、滝沢小学校区の放課後児童クラブの定員超過問題は。

【答】新設小学校のプール脇に新設予定です。

【問】人道橋建設計画の進み具合は。

【答】人道橋の建設は、市民参加型のワークショップを取り入れ整備計画を進め、開校に間に合う様にします。

【その他の質問】

①滝沢市内の事業者、土木建設、商工業、農業の経営状態と市役所の契約状況、購入状況と今後の経営対策は。

②教育委員会及び各学校、PTA等の備品消耗品、滝沢市内からの契約購入状況は。

Q 市の難病や特定疾患の患者数は

A 特定疾患の患者数は310人

しののめ会　**武田哲 議員**

【問】難病等で日々の暮らしに不安を抱いている住民のためにも、難病、特定疾患の受付、相談業務を市で行うべきであると思います。そこで次についての考えは。

①難病、特定疾患の患者数と支援対象者の数について

②災害時の支援対象者として自治会、消防に伝えられているかについて

③難病、特定疾患の相談、受付業務を行う考えについて

【答】①難病は、現在130の疾患が対象となっており、そのうち56の疾患が特定疾患となり医療費受給を受けています。

市の患者数は、特定疾患の患者数が25年3月末で310人です。難病、支援対象者の数は、把握していません。

②特定疾患の受け付は県が行っており、本人の同意を受けて、市が情報提供を得ているのが26人です。

そのうち市の要支援台帳登録に同意を得ているのは8人で、自治会、消防等に情報提供しています。

③難病、特定疾患の相談は、県で難病患者地域支援ネットワーク事業を行っており、市への相談はありません。受付も県で専門職員を配置し受付業務をしています。

しかし、市民サービス向上と難病等で日々の暮らしに不安を抱いている市民のためにも、受付業務に関して今後検討します。

Q 市内全体の公共交通ネットワークの考えは

A バス事業者等と協議しながら取り組む

会派に属さない議員　**柳村一 議員**

【問】国交省の地域公共交通部会の中間とりまとめは、従来の枠組みから脱却し、地域の関係者が知恵を出し合い、「持続可能な公共交通ネットワーク」を構想し、その実現を図ることが重要であるというものです。

そこで、今後の市内全体を見渡した総合的な公共交通ネットワークの形成と住民の協力を含む関係者の連携は。

【答】市内全体の公共交通ネットワークの形成については、鉄道とバスを中心に、自家用車や自転車と連携したパークアンドライドによる駅を拠点とした整備を進めます。

また市役所への連絡バスについては、現在整備が進められている交流拠点複合施設の開設に併せ、各地域と市役所及び複合施設を連絡する幹線バス網の整備に向けて、バス事業者等と協議しながら取り組みます。

住民の協力を含む関係者の連携については、地域公共交通が移動手段であるだけではなくコミュニティ形成に関わることから、「公共交通の担い手」として積極的な利用や利用促進に関する啓発に参加するなどの連携協力が重要だと考えます。

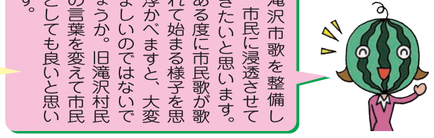
複合施設の開設に併せたバス網の整備は、運行開始に先駆けて、住民への周知と利用促進のためのバスマップ等を作成します。今後とも住民と行政、交通事業者等が相互に連携・協力しやすい方策等を検討します。

議会にズバリひと言

傍聴に来ていただいた皆さんからお寄せいただいた感想をご紹介します!!

地域のみでなく、議場にもっと足をはこぶ様うながしてほしい。コミュニティの意識作りを、議会としての取り組みで考えてほしい。議場に足をはこんだ住民は何人いるだろうか。

回答：傍聴などで議会の様子を見ていただくことは、とても大切なことだと考えます。気軽に足を運んでいただけるよう、身近な、より開かれた議会をめざしてまいります。



滝沢市歌を整備し、市民に浸透させて頂きたいと思います。事ある度に市民歌が歌われて始まる様子を思い浮かべますと、大変望ましいのではないでしょうか。旧滝沢村民歌の言葉を変えて市民歌としても良いと思います。

回答：現在お昼に流れている「いいねふるさと」という曲を、市では「市民の愛唱歌」としています。市議会では、村議会最後の日に、この歌を合唱しました。